

前奏 黙想	祈 禱
讚美歌 7 主のみいつとみさかえとを	讚美歌 122 みどりもふかき 若葉のさと
祈 禱	献 金
信仰告白 使徒信条 566	讚 詠 547 いまささぐるそなえものを
聖 書 出エジプト記 20:12	黙 禱
ルカによる福音書 2:41~52	主の祈り 564
讚美歌 316 主よ、こころみ うくるおり	頌 栄 541 父、み子、みたまの
説 教 『心に納めていられる、恵み』	祝 禱 後 奏

エルサレムからの帰路、12歳のイエスを置き去りにしたことに気づいた両親が大慌てで戻る(ルカ 2:43~45)。よく知られた場面だし、幾度も説教して来た。それでも新たな響きが聞こえて来る。まず状況を見てみよう。時は春の過越祭。人口5万人の城壁都市エルサレムは、巡礼者も加わるとその2倍にまで膨らむので、そりゃ簡単に見つからないだろう(2:46)、と想像する。帰郷する集団にぶつかり尋ねながら戻るのに一日(2:44)、ごった返す市街で探し当てるまでに二日かかったようだ(2:46)。

ヨセフとマリアは毎年イエスと弟妹たちを連れ、御近所の一団でエルサレム詣でをしていた(2:41)。12歳は青年期のはじまり、13歳から成人男子の宗教儀礼に加わるので放任していた。だから神殿で「学者たちの中(直訳)に座って、話を聞いたり質問したりして(2:46)」いても、おかしいことではない。今でもそんな少年はいるし、その博学や大人びたふるまいに感心することがある。ヒステリックに叱る母(2:48)に対して、「どうしてわたしを捜したのですか。わたしが自分の父の家にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか(2:49)」と、しらっと応ずる口調、こんな少年いるよな。私たちは「どことなく上から目線の、やや声の上ずった、オタクっぽい男の子」を思い浮かべる。

「両親にはイエスの言葉の意味が分らなかった(2:50)」。あのオタク口調や身勝手な行動は毎度のことながら、「自分の父の家にいるのは当たり前」という言葉は理解できなかった。とはいえ12歳では家業の大工仕事も半人前で、「イエスは一緒に下って行き、ナザレに帰り、両親に仕えてお暮しになった(2:51)」。ここで注目しておきたいのは、「母はこれらのことをすべて心に納めていた(2:51)」こと。

「あなたの父母を敬え。そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることができる(出エジプト 20:12)」。十戒の第五戒だが、12歳のイエスは故郷でこれを守っていた。だが「わたしが自分の父の家(神殿)にいるのは当たり前(ルカ 2:49)」という感覚がすでにあり、30歳頃には家業を放り出して放浪のラビ(聖書の教師)となる。とはいえ、早々に消息が絶たれる父ヨセフに代わって家長となり、弟や妹たち(マルコ 3:32,6:3)が成長するまで、真面目に大工仕事をしてきたのかもしれない。

クリスマスの際、母マリアは一連の不可思議な「これらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた(ルカ 2:19)」。そして12歳のイエスの出来事も「すべて心に納めていた(2:51)」。「心に納める」とはどういうことだろうか。「分る、出来る、納得する」ことではない。分らずとも放り出さず、小さな「心で抱え続ける」こと。高貴で聡明な人間に成長するわけでもない。田舎の素朴な母のままだ。

イエスの言葉に感激「ある女が群衆の中から声高らかに言った。[なんと幸いなことでしょう。あなたを宿した胎、あなたが吸った乳房は] (11:27)」と。母マリアも自分をこう誇ってもいいだろうに、「すべてを心に納めた」まま謙虚に生きた。イエスの十字架を遠くから見た時には「ガリラヤから従って来た婦人たち(23:49)」の中にまぎれ、「心に納めていた」シメオンの「あなた自身も剣で心を刺し貫かれる(2:35)」という預言を嘔みしめただろう。復活の時には「ヤコブ(イエスの弟)の母(24:10)」と数えられ、聖霊降臨の前には弟子や婦人たちの中にさりげなく加わっていた(使徒 1:14)。

キリストに愛され捉えられて特別なことはない。すべてを心に「納めていられる」恵みをいただく。

キリストに従うとは 信仰の目標を達成させることではない その時 キリストの謎と共にある事 分らないまま心に納められることが恵み いつからか 気づかないままキリストに捉えられていて

本日礼拝子は役員会。コロナの事もあり「カレーの日」はお休みです。2/7の教会カフェも休み。2/10(土)1:30~3:00 聖研。牧師の動き:2/6 分区教師会(甲府教会)、2/7 YMCAで聖書のおはなし。

礼拝堂・集会所の住所: 408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ: 408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メール komechan.olive@orange.zero.jp HPは「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。